

12/25

お正月ならではの行事を体験 船越小の児童が餅つき

船越小学校屋内運動場で餅つきがあり、地域住民の協力の下、小学生15人が参加して木製のきねを手に石臼で餅をつきました。

この活動は、西海公民館が毎年この時期にたこ揚げや羽根突き(羽子板)などの正月を感じられる催しを行う「正月体験教室」として実施したもので、餅つきは昨年が続いて2回目の開催となりました。

この日は子どもから大人まで参加者が協力して紅白とみかん、よもぎの4種類の餅をつき、その後、あんを餅に包んであん餅を作りました。

これまでも祖母と一緒に餅つきをしたことがあると話す5年生の児童は、「餅をつくのが楽しかった。あんこを入れる作業は難しかったが、上手にできた」と楽しんだ様子でした。



▲児童に餅のつき方を教える協力者の谷口八千代さん(右)



▲協力してあん餅を作る船越小の児童

1/8

町内で大雪 御荘でマ イナス3度を観測

強い冬の気圧配置により、四国地方では四国西南部や山間部を中心に広い範囲で積雪がありました。

県内では南予地方を中心に10センチを超える積雪があり、町内でも前日から断続的に雪が降り続けました。

松山地方気象台によると、1月8日(金)午前4時46分に御荘でマイナス3度を観測する厳しい寒さとなり、一部の道路では凍結が見られました。



▲役場本庁付近の積雪の様子(奥は城辺保健福祉センター)



愛媛CATV
動画

1/12

四国八十八カ所霊場を 巡る絵画展

御荘文化センターで深浦の東本健太郎さんによる「四国八十八カ所霊場を巡る絵画展(色鉛筆画)」が1月13日(水)から18日(月)まで開催されました。

東本さんは絵画経験がないにも関わらず、6年ほどかけて夫婦で四国八十八カ所霊場を訪れ、色鉛筆画を描いてきました。

今後の目標について東本さんは、「四国のお寺を回って絵を制作してきたので、今度はいろいろな神社の絵を描いていきたい」と話しました。



▲40番札所の観自在寺の絵を持つ東本健太郎さん



愛媛CATV
動画



▲人権教育の大切さについて説明する川崎健太郎さん

講演では部落差別が続いていることや、学校や地域で人権学習を十分に行うことが必要であるとの話がありました。

特定非営利活動法人はらからの川崎健太郎代表理事（高知県黒潮町）を講師に招き、「人権教育に期待するものゝ差別の現状から」と題した講演が行われました。

御荘文化センターで「令和2年度第5回愛南町人権・同和教育指導者養成講座」が開催され、町職員・教職員を中心に41人が参加しました。

人権教育の大切さを学ぶ指導者養成講座

1/14



▲ワークハウスたちばなの職員からマスクを受け取る児童

6年生の児童は、「マスクを活用し、新型コロナウイルスの予防に努めていきたい」と話しました。

これは、新型コロナウイルス感染症対策として、日常的に使用するマスクを町内の小中学校に在籍する児童や生徒に配布するために、町がワークハウスたちばなに制作を依頼し、作られたものです。

平城小学校で、障がい者の就労を支援するワークハウスたちばなの手作りマスクが愛南町から児童に贈呈されました。

手作りマスクを町内小中学校に贈呈

1/26

「愛顔感動ものがたり」写真部門・一般の部 濱本秀雄さん(船越)の作品が優秀賞を受賞



▲優秀賞を受賞した作品
「太鼓祭り最高!!」
(令和元年10月17日撮影)



愛媛CATV
動画



コンクール
結果(県HP)

県の知名度向上や、愛媛ファン獲得につなげることを目的に毎年開催されているコンクール「愛顔感動ものがたり」の写真部門・一般の部において、船越の濱本秀雄さんの作品「太鼓祭り最高!!」が優秀賞を受賞しました。

このコンクールにはエピソード部門と写真部門があり、それぞれに一般の部と高校生以下の部が設けられています。今回濱本さんが受賞した写真部門には44都道府県から5,130作品の応募がありました。

1/31
結成55周年の南宇和ライオンズクラブが
南レク城辺公園大森山桜園で陽光桜を植樹

南宇和ライオンズクラブ結成55周年を記念した桜の植樹が南レク城辺公園大森山桜園であり、南宇和高校ボランティア部の生徒7人を含む関係者23人が参加しました。

昭和41年3月に結成された南宇和ライオンズクラブは5年ごとに記念事業を実施しており、同地に桜を植樹するのは今回で3回目です。

過去2回のソメイヨシノと異なり、今回初めて植樹された陽光桜は暑さや病害虫など環境への適応能力が高く、花は鮮やかなピンク色が特徴です。

また、陽光桜は東温市の遠赤青汁株式会社で代表取締役を務



▲高校生に苗木の植え方を教える南宇和ライオンズクラブの竹村和也55周年大会委員長(左)



▲南宇和ライオンズクラブの会員を中心に協力して植樹を行う参加者

める高岡照海さんの父、正明さんが開発した品種であることから、今回の記念事業に対して同社から苗木100本の寄贈があり、計200本の植樹が行われました。

南宇和ライオンズクラブの埜下浩孝会長は、「景色の良い場所に植えたので、数年後に開花した際には園内を散策しながら桜を楽しんでもらいたい」と話しました。

また、南宇和ライオンズクラブの今後の活動については、「自分たちのできる範囲で地域活性化に取り組んでいきたい」と目標を語りました。

2/1
観光分野の地域おこし協力隊に
東京都出身の関根麻里さんが着任

愛南町の新たな地域おこし協力隊員として、東京都目黒区出身の関根麻里さんが2月1日付けで着任しました。愛南町役場商工観光課に在籍し、観光分野の活性化に携わる予定です。

関根さんは、東日本大震災のボランティアで東北地方を訪れた際に、農業や漁業など一次産業に携わる人たちと一緒に活動している地域おこし協力隊に興味を持ちました。

その後、東京都で開催された四国関連のイベントに参加したことがきっかけで、当時愛南町の協力隊員として活動していた森裕之さんに出会いました。

森さんと連絡を取り合って何度か愛南町を訪れるうちに、美しい町の風景やおいしい食べ物を気に入り、協力隊への応募を決意したそうです。

関根さんは、「愛南町の特産品や郷土料理などを全国に広められるように頑張りたい」と抱負を述べました。



▲清水雅文町長から委嘱状を受け取る地域おこし協力隊に着任した関根麻里さん(右)

町公式Instagram
「びやびやぐらむ」をご覧ください



関根さんが日々の活動や愛南町の魅力など、いろいろな情報を発信していきます。ぜひご覧ください！

Instagram



▲コンクールで受賞した愛南ゴールドジュースをPRする南宇和高校農業科の生徒



愛媛CATV
動画



コンクール
結果(県HP)

2/3

南宇和高校の愛南ゴールドジュース高評価！
みかんジュースコンクールで高校生初の受賞

県産かんきつを用いて製造した果汁100%ストレートジュースの出来を競う「えひめ愛顔セレクション みかんジュースコンクール2020」(愛媛県主催)があり、南宇和高校の愛南ゴールドジュースが中晩柑類のみを使用した部門でスペシャルアワード(部門内の第1位から第3位に該当する各1作品に次ぎ、一芸に秀でていることや今後の活躍が期待できる作品)を受賞しました。

今回受賞した愛南ゴールドジュースは、同校平山農場で農業科の生徒が育てた河内晩柑を用いて作られています。卒業生がデザインした高校生らしいパッケージも評価され、高校生初の受賞につながりました。

農業科2年生の菅原こころさんは、「酸味、甘み、苦みのバランスを大切にしたジュース。上位に入るとは思っていなかったのうれしい」と感想を述べました。

また、今後の目標について農業科1年生の豊田愛華さんは、「東京オリンピックピック・パラリンピックの選手村に愛南ゴールドを食材として提供することを目標にしている。そこから世界に向けて発信できるようにPR活動を頑張りたい」と話しました。

2/6

地域を盛り上げようと地元有志らが企画
特産品販売やイルミネーション点灯を実施



▲デコポンやポンカンなどのかんきつや、コンフィチュールを販売したはなき農園



▲新発売の宮下酒造の「愛南ゴールドサワー」も販売されました(13ページに関連記事)

新型コロナウイルス感染拡大で営業活動に影響を受けた町内の事業者を支援しようと、地元有志らによる「あいなんウインターフェスティバル」(あいなんフェス実行委員会主催)が2月6日(土)に南レク御荘公園旧噴水広場で開幕しました。

昨年8月に初開催された「あいなんサマーフェスティバル」の冬仕様として企画されたイベントで、2月の毎週土曜日と日曜日に行われました。

初日となったこの日は晴天に恵まれ、愛南かきやポンカンなどの特産品を販売するブースが4つ出展したほか、カキのつかみ取り大会などもあり、来場者を楽しませました。

また、2月6日(土)から28日(日)にかけては、午後6時から午後10時まで同所で橋をイメージしたイルミネーションの点灯も行われました。

イベントを主催した実行委員会事務局の山岡拓也さんは、「コロナ禍で楽しみが少ないが、昼はイベント、夜はイルミネーションを楽しんでもらいたい」と話しました。



愛媛CATV
動画



観光協会
ホームページ